



市学校人権・同和教育研究大会を行いました

11月1日(金)、市内小・中学校六校を会場として、四国中央市学校人権・同和教育研究大会が開催されました。本校にも約90名の方にお越しいただき、本校の授業公開や他校の実践報告を中心に「見つめよう！つながろう！ひらこう！四国中央市の人権・同和教育」の大会テーマの下、研修を深めました。

1年生では、友達の言動で「おかしいな。いけないな。」と感じたことは、勇気持って相手に伝え、よくしていこうとする態度の育成を目指した「**ダメ**」の授業を公開しました。低学年において、善悪の判断、影響力の強い友達にも注意できる実践力をつけることは、差別をなくす力の基礎となるものです。全ての教育活動を通して、継続して育成していきます。

3年生では、うわさに惑わされたり、決め付けをしたりせず、相手の本当の姿を見極め、偏見をなくし、つながっていこうとする態度の育成を目指した「**橋**」の授業を公開しました。学習を積み重ねることで、主体的に差別をなくしていく行動、安易に迎合せず、間違いを正していく力につながることを信じて、日々の生活の中で指導を継続していきます。

6年生では、「**山の粥**」の授業を公開しました。自分だったらどう行動するかを考えさせることで、山の粥を作り続けた平介の村の人たちの思いに迫りました。差別に対する強い憤りを持ちながらも、それでも、人間としての社会正義に従って行動した村の人の生き方から、自分の目標とすべき生き方を学ぶことを目指しました。常に、自分の内面を見つめ、自分のこととして考えることを大切に、差別を許さない、差別をなくしていこうとする子どもたちを育てていきます。

実践報告では、川之江小学校の報告を受けて、参加者全員で、全ての人権が尊重される社会を創るために、教育現場において、私たちはどんな取組をしなければならないかを話し合いました。

研究協議や全体での話し合いにおいて、参加者の皆様から貴重なご意見を多数いただきました。この研究大会での学びをこれからの本校の教育活動に生かし、一人一人の教職員が、同和問題をはじめとするあらゆる人権課題の解決に向けて主体的に取り組んでいきたいと思っております。

